



科研(B)_近代日本公共施設RC造化シンポジウム 公共施設のRC造化が示すこと

1910年代から1950年代にかけて進んだ公共施設のRC造化について、耐火耐震耐風や施工など建築構造や建築技術の視点、陸屋根の活用など平面や用途・機能の視点、RC造建築が持つ社会的意義という視点など複眼的な視点から公共施設のRC造化を考えてみます。

開催月日: 2025年11月29日(土) 13:30-17:30

場所: 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール(定員70名)

13:30 開会

13:40 第1部 科研研究班からの報告

科研研究班による全国各地で起きた公共施設のRC造化の報告

16:00 第2部 意見交換

海外研究者(尹仁石韓国成均館大学校名誉教授+黃俊銘台灣中原大学兼任副教授)と科研研究班との意見交換

主催: 科研「近代日本の公共施設RC造化」研究班(代表: 西澤泰彦)

「文化遺産としての近現代建築物の保存活用にむけた学びあいと
人的ネットワーク構築」(代表: 荒木慶一京大教授、トヨタ財団国際助
成プログラム)

参加申込先: nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

氏名・所属・返信先メールアドレスを書いて申し込みください

【参考】シンポジウム前日開催の建築学総合セミナーに尹仁石先生が登壇

尹仁石「韓国近代建築史研究におけるRC造建築」

開催日時: 2025年11月28日(金) 16:30-18:30

開催場所: 名古屋大学オオクマホール 主催: 名古屋大学建築学教室



シンポジウム「公共施設のRC造化が示すこと」

プログラム(予定*)

13:30 開会

13:40 第1部 科研研究班からの報告

Part 1(13:40-)

永井康雄:『建築世界』にみるRC造に関する言説

西澤泰彦:公共施設のRC造化によって生じたこと

橋寺知子:初期鉄筋コンクリート造図書館について

—関西の事例を中心に—

Part 2(14:20-)

湯澤規子:公共施設のRC造化とサニテーションの変化

—復興小学校建築を事例に

砂本文彦:校舎改築に期待されたRC造の公共性—長崎市の場合—

安野 彰:戦前の群馬に建設された鉄筋コンクリート造の小学校校舎

Part 3(15:00-)

興津眞知:戦前の甲府で鉄筋コンクリート造建築の普及に貢献した

内藤半二郎の経歴と業績

角 哲:公共施設のRC造化が遅れた北海道—函館・小樽・札幌を中心に

青木孝義:灯台の石造・煉瓦造からRC造化と鉄筋腐食

Part 4(15:35-)

西山直哉:民間設計事務所の業績にみる戦前期の山形県内における

RC造化の実態—秦・伊藤設計を事例として—

小松 尚:創造都市拠点に転用され、生き続ける昭和初期竣工の

RC造校舎—山形市立第一小学校旧校舎—

服部亜由未:RC造公共施設の拡がりと保存を考える

[休憩 16:00-16:10]

16:10 第2部 意見交換

海外研究者(尹仁石韓国成均館大学校名誉教授+黄俊铭台湾中原大学兼任副教授)と科研研究班との意見交換

17:25 閉会

*報告の順番は変更の可能性もあります。ご了承ください。

